

## 令和3年 市政ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 令和3年5月23日（日）14時から16時
- 開催場所 近隣センターこもれび
- 参加者 市民14名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、小林企画財政部長、隈市民生活部長、三澤健康福祉部長、柏木環境経済部長、南川建設部長、森都市部長  
他管理職13名

### ■懇談要旨

市 民：市長の防災アナウンスについて、「みんなありがとう、これからも頑張るから。」という言葉に感銘を受けました。とても素晴らしかった。

では、質問させていただきます。家の前でNEC社宅の解体が行われています。解体後は、36戸の建売が建つとのこと。その付近の市道は、高野山小学校、我孫子中学校の通学路や生活道路になっています。交通事故発生事前防止の観点から、現地を見ていただき、事前対応をお願いしたいと思います。この件は、高野山小学校の校長先生にも伝わっております。ただ、具体的な対応の話になっていないので、ぜひお力添えをいただきたい。

建設部長：後程、現地確認をさせていただきます。市内の通学路につきましては、5～6年前から、学校、道路課、警察、PTAで危険個所の安全対策をとる安全プログラムという協議会が立ち上げられています。その中で検討していきたいと考えています。よろしく願いいたします。

市 長：学校に話をしていれば、今後協議をしていくことになると思います。協議会の中で検討させていただきます。今回のタウンミーティングは市長部局の中のものであります。教育委員会で実施するタウンミーティングの予定は、現在のところ、布佐中学校区で実施するもののみとなっています。教育の中身は、教育委員会ですが、建物等の予算は、私の方で予算を組みます。この件につきましては、協議されると思いますので、情報提供ありがとうございました。

市 民：我孫子市の学校施設個別計画についてです。学校プールの件について疑問を感じたので、質問いたします。プールはお金がかかるため、節約したいのはわかりますが、隣の学校に行くというのは難しいのではないのでしょうか。これから暑くなる中では、虐待に繋がるのではないかと思います。必要なものに

はお金を使ってほしいです。教育委員会はどう思っているのでしょうか。学校給食の件についても、私は署名しました。親子方式と自校方式について。根戸小と並木小については、条件付きだが、親子方式を検討するとあるが、どういうつもりで書いたのか疑問に思います。教育はお金がかかるが必要なところにはかけてほしいと思います。自校方式も親子方式も、1億円しか変わりません。毎年1,700万円しか変わらない。今まで通り自校方式を行ってほしいと思います。本物を見せることが大切です。修学旅行もそうです。親子方式では、生ぬるいものを6年間食べることになってしまう。これはひどい、差別だと思います。教育の機会均等に反します。ぜひ、今まで通り自校方式を継続してほしい。

市長：教育委員会には伝えます。私からは、知っている限りでお答えします。現在、我孫子では東側の学校の生徒が減っています。布佐中学校区ではすべてが1クラスで、そのような学校は他にもあります。そういった中では、子供の数を見ながら、建物の建て方を検討する必要があります。小中一貫も文科省の方針で、検討する必要があり、今は分離型です。小学校の高学年には選任科方式をとる方針です。今のままだと中学校の先生が派遣することになります。そのようになると、小中一体型の小中一貫になるかもしれません。同じ敷地内に、建物が2棟の場合も考えられます。布佐中と布佐小は、隣接していますが、布佐中は、ハザードマップでは浸水エリアです。布佐小学校は違います。浸水しないところに校舎を集中させ、浸水エリアはグラウンドにしようということでの検討もしています。プールにつきましては、お金がかかります。先ほどお話ししたことは、千葉市ではすでに実施済みです。そして、プールで浮いたお金を他の教育部分にまわそうと考えています。我孫子市では、福祉の予算も増えています。教育の予算も増やしています。そういった中で一体型の小中一貫と新しい校舎のあり方を検討しているのです。プールは、すぐそばにあるのであれば、1つでいいのではないかと。年間10時間のプールの授業で良いのか。溺れない為の水泳事業であれば、民間のプロに教わってもいいのではないかなど、試験的に行おうとしましたが、コロナで出来ませんでした。なお、すべての学校で、年間10時間の授業をすることが必要かということも、検討するものだと思います。移動が必要ということであれば、まとめて授業をすることを検討が必要ではないかと思えます。なくすという意味ではございません。削れるところは削る、という考えです。給食については、コロナ前の時は、私も学校に行き、小学生と一緒に食べていました。センター方式は行いませんが、親子方式と、自校方式は検討する必要があると思っています。私が中学校の時は、隣の小学校まで、給食を取りに行っていました。布佐小と布佐中は隣接し

ていますので、検討してもいいのではないかとことです。他の予算を削るなら親子方式にしてもよいのではないかと考えています。私は、給食イコール教育ではないと思っています。給食なら教育、お弁当なら教育ではないということでしょうか。教育とは PC・タブレットなど、今後子ども達が大人になって必要になってくるものではないかと思えます。食育は千葉県で一番初めに作りました。週4日は我孫子のコメを使って、週1日は我孫子の旬の野菜を使っています。出来れば、週2回に増やしたいと思っていますが、これは地元農家の協力があってこそ、出来ることでもあります。こういったいろんな事が含まれていて、そこから学び得ていくものが食育であり、単に給食が食育につながるとされているのですが、イコールではないということです。今後、他の教育にお金を使うために、削れるところは、削りたいと思っています。絶対に必要な予算を必ず残すために、将来の計画を立てる必要があるわけで、校舎や、体育館のエアコンについても、私の方で予算をつけたいと考えています。教室のエアコンについては、子供達から直接言われて、その要望を反映しました。これからも本当に必要な予算を残すために、我慢をお願いするところもあると思いますが、ご理解いただきたいと思えます。

先ほど給食がぬるくなる、という話がありましたが、私も学校訪問の際に、子供達と一緒に給食を食べますが、現在の自校方式でも全て子供達が配膳をしますので、時間がかかり、ぬるいです。

いただいたご意見については、教育委員会に伝えます。

市 民：5月19日付の朝日新聞で、スロベニアの事前合宿の記事をみました。オリンピックはやれないのではないかとビクビクしています。コロナも心配です。このような中で、明日調印式があると書いてありました。とても疑問です。経緯を教えてほしいと思えます。やめるべきではないでしょうか。

もう一点は、現在、栄養士を全校に配置していることは素晴らしいことです。ただ、アレルギーの子ども達も増えてきています。少しでも間違えると死亡事故につながります。調布市でも事故は起きています。親子方式にすると栄養士を置かないことができてしまい、丁寧なアレルギー除去食ができなく、センター方式と同じようなことになると思えます。

市 長：スロベニアの合宿についてですが、2年前から、事前キャンプを検討して、その当時は台湾を受け入れる予定でしたが、銚子に行ってしまいました。今年に入ってから、事前キャンプ地として予定していた市が、急遽受け入れが出来なくなってしまい、県から相談がありました。市としては悩んでいる国があるのであれば、ということで、医師会等と検討をし、事前合宿中は

毎日PCRを行うということと子供との交流も条件に、受け入れを決めました。子供達とは、競技後の日本を出国する前に交流させたい。全員は無理ですが、希望する柔道をやっている子供たちと交流をさせたいと考えています。メダルがあればなお、うれしいのではないかと思います。

なお、オリンピックや聖火リレーはIOCや組織委員会が決めることですので、我孫子市は、それに従うものです。ご意見の中には、7～8割がオリンピックに反対しているというのは違うと私は思います。事前キャンプについては、修正等はあるでしょうが、こちらから断るということはいたしません。医師会とも調整ができていますし、現状は柔道とテコンドー、空手は出場権が決まれば受け入れます。スロベニア側が事前キャンプを中止したり、オリンピックが中止にならない限りは受け入れます。困っている人がいれば受け入れるということです。こちら側も最大限の努力をして受け入れますが、受け入れるのはまだ2か月近く先の話です。まだ、どうなるかわからない状況ではあります。大選手団ではないということは、この場でお伝えさせていただきます。

アレルギー食については、親子方式は1か所で作るわけですが、現在、800人以上の学校で対応できているのに、2校あわせて400人のところで、アレルギーの対応ができないという職員はおりません。心配はいりません。特別支援学級については、東葛で最も多くの人を配置しています。なぜ、そんなに栄養士の能力が低くみられるのか疑問です。

市民：手賀沼沿いの遊歩道についてです。市の方で、野鳥の餌付け禁止をしていると思いますが、どこからが民地であるのかわからない人が多く、大人のマナーが悪い。農地に入らないようにしようとか、野鳥に餌付けしないようにしようという看板を立ててほしい。

環境経済部長：コブハクチョウの農業被害は深刻です。餌付け禁止の看板は少しずつ設置していますが、今後、増設することも考えていきたい。

市長：コブハクチョウも最初はかわいかったのですが、今では、害鳥となってしまっています。県が取り締まるべきだと思いますが、県もこの4月からは、一緒になって動いてくれると言っています。市としては、殺処分はしていません。おっしゃる通り、大人のマナーの悪さが目立ちます。田んぼに入らないよう、ネットを張っているのに、わざわざネットを持ち上げて、コブハクチョウを田んぼの中に入れていたり、わざわざネットを持ち上げて、コブハクチョウを田んぼの中に入れていたりする人もいます。田んぼの中に餌を撒いている人もいます。農家の方々とも協議しながら対応を検討していきたいと思っています。農家の方々は、生計のもとになっていることをきちんと周知していく必要があります。

ます。

それも子供のうちから伝えていく必要があります。食の大切さ、生産の苦勞なども教えていくような教育を進めていきたいと考えてます。農業支援は必要です。協力しながら対策を行っていききたいと思います。

市 民：昨年柏から引っ越してきました。我孫子市は、魅力的な街だと思います。東京への距離と、自然が豊かなのが魅力です。コロナ禍でも人口密度が我孫子市は、丁度良いと思います。中でも嘉納治五郎別荘別荘跡地からの階段は素晴らしいと思います。歩いていて、良いところがあると、もっと良くなるのではないかと考えます。スポットライトを設置したり、デザイナーに頼むなど、もっと魅力を引き出してほしいと思います。

ハザードマップについては、見やすくてよいと思いますが、利根川の水害について、中央学院大学近くの堤防のところから電力研究所の方へ向かっていったところで、同じ高さになっていなくて、崖のようなところがありました。何かで高さを埋めるなどするとハザードマップも変わるのではないかと、考えました。

市 長：我孫子の魅力を伝えていきたいのですが、コロナの終息が見えないと、動きづらい状況です。色々な提案を色々な方からいただいております。水鳥が生活しやすい環境は、人も生活しやすいと思います。嘉納師範が我孫子で生活していた時は、教育者としておられました。ですから、我孫子では主にプライベートで来られたようです。心の安らぎ、癒しを得られる、手賀沼や利根川の水辺空間や、農地の緑を守っていけたらと考えています。手賀大橋のライトアップも復活しました。桜並木のライトアップも続けております。色々な提案もいただくのですが、コロナが落ち着いたら、少しずつ行っていききたいと思っております。堤防の件ですが、北新田が満水になったのは20年ぶりです。あれは越流堤があって調整池に水を流したからです。その時に国交省の職員が来まして、前回よりもさらに水をためられると聞いていましたが、心配なのはご指摘のところですね。市でも国交省に要望していて、必要な堤防の強化をするように伝えていきます。市でも、国交省に職員を派遣したり、国から市に派遣してもらったりしていて、常に堤防の強化は続けてもらっています。青山や、江蔵地などの強化を続けて行く中で、囲繞堤（いぎょうてい）も強化されていく予定です。